

令和7年度厚木市総合教育会議第1回会議 会議録

- 1 日 時 令和7年6月30日（月）午前10時から正午まで
- 2 場 所 厚木市役所本庁舎3階 特別会議室
- 3 出席者 山口市長、佐後教育長、杉山教育長職務代理者、森委員、山本委員、宮崎委員
- 4 事務局 企画部長、企画部次長、企画政策課長、総合計画担当課長、教育部長、教育指導担当部長、教育総務課長、教育指導課長、教職員課長、教育研究所長、青少年教育相談センター所長
- 5 傍聴人 なし
- 6 案 件
 - (1) 令和7年度総合教育会議について
 - (2) 厚木市教育大綱について
 - (3) 「子育て・教育で選ばれるまちの実現」に向けた取組について
- 7 会議資料 別紙のとおり
- 8 会議概要（議事進行：山口市長）
 - (1) 令和7年度総合教育会議について
令和7年度総合教育会議について、企画政策課長から資料1に基づき説明

【企画政策課長】
(資料1のとおり説明)

【各委員】
(異議なし)

【山口市長】
異議なしとして、今年度扱う事項については、資料のとおり進める。
 - (2) 厚木市教育大綱について
厚木市教育大綱について、企画政策課から資料2に基づき説明

【企画政策課長】

(資料2のとおり説明)

【宮崎委員】

厚木市教育大綱は、これまではA4サイズ1枚に収まっていた。新しい厚木市教育大綱は、第3次厚木市教育振興基本計画の各項目のいずれかをもって定めるとのことだが、ボリュームとしてどのくらいになるか。

【企画政策課長】

第3次厚木市教育振興基本計画は、計画の構成や内容を検討している段階であるため、書き振りによってどのくらいのボリュームになるか未定だが、基本理念及び基本目標を厚木市教育大綱として定めると想定すると、A4で1ページ半から2ページほどとなり、計画の「●ページが厚木市教育大綱」という形で示すことになるのではないかと思う。

【教育総務課長】

第2次厚木市教育振興基本計画を見直し、より分かりやすいものとするために、基本理念の中に基本目標を含ませる案も出ている。

【宮崎委員】

資料2の説明の中で、厚木市教育大綱の内容について詳しく解説することも想定しているとのことだが、あくまでも「大綱」であるため、内容の説明を詳しく書く必要はないのではないか。

【森委員】

学校の職員室や教室に行く機会があるが、厚木市教育大綱は、短く大きな文字で掲示されているとよいと思う。学校に配るものとしてはコンパクトなものが良い。

教育委員会が定めるものは、詳細なコメントを記載することが多いが、厚木市教育大綱は市長が定めるものであるため、インパクトがあった方が伝わりやすく感じる。

【企画政策課長】

学校に配布するものについては、御意見のとおり大きな見出しのものがあるとよいと考えている。

ただ、厚木市教育大綱は今回から第3次厚木市教育振興基本計画に統合する形とするため、基本理念や基本目標の説明文の中で、定めた意図を示していく方向で考えたいと思っている。いただいた御意見を参考に内容を考えていく。

【宮崎委員】

資料2に記載の8月6日の意見交換会について、1回のみの開催でよいのか。総合計画審議会などは、意見交換会を複数回開催する。広く多くの人の意見を募るという意味で、複数回開催した方がよいのではないか。また、暑い^{さなか}最中の開催でもよいのか。

【山本委員】

意見交換会の話が出たが、もう少し先のパブリックコメントのスケジュール感についてもタイトだなと感じた。1か月前倒しで着手してもよいのではないか。

【企画政策課長】

スケジュールについては、パブリックコメントまでの間にしっかりと内容を固めるために時間を割きたいという思いがある。また、担当各課や関係機関の皆さんと検討し尽くした内容をパブリックコメントに出していくことで、修正が少なくなるのではないか。意見交換会については、基本的には、お示ししたスケジュールに沿って進められればと思っている。

【山本委員】

厚木市教育大綱について、基本理念と基本目標に説明文を加える想定ということだが、例えば現在の厚木市教育大綱の文言の下に説明文が入るというイメージか。

【企画政策課長】

第3次厚木市教育振興基本計画の一部分を厚木市教育大綱とするため、計画の構成に沿って、基本理念や基本目標の下に説明文が入る形となる予定である。

【山本委員】

厚木市教育大綱は、理念をしっかりと伝えることが大事だと思う。例えば、東京都の教育大綱は「子供版」や「やさしいことば版」を作っている。

大人とこどもの双方が厚木市教育大綱の理念を認識し、全世代が共有することで、厚木の教育が世代を超えて受け継がれていくものになるのではないか。そういった仕掛けをしていただきたい。

【企画政策課長】

掲示用やこども版、大人版など、対象者に応じたものを作ることは検討していきたい。

【山口市長】

今後においても皆様の意見を反映させていながら、策定を進めていく。

(3) 「子育て・教育で選ばれるまちの実現」に向けた取組について

「子育て・教育で選ばれるまちの実現」に向けた取組について、市長からフリートークの趣旨を説明

【山口市長】

本市では、「子育て・教育で選ばれるまち」の実現に向けた取組を施政方針に掲げ、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりのため、小・中学校給食費無償化や教室・体育館の冷暖房設備といった環境面の整備、不登校や外国籍の子どもたちのサポート等、様々な施策を行っているところである。

近年の急速な人口減少に伴い、どの自治体も転入促進施策に力を入れており、とりわけ、子育て環境の充実や支援については、手厚いサービスを展開している自治体が多い印象がある。

そのような中で、これからは、今まで以上に「教育」が注目されていくのではないかな。

今回の総合教育会議では、人を惹き付ける「教育」としてどのような施策が考えられるかを、皆様と一緒にフリートークという形で意見交換をさせていただき、今後の市政に反映させていきたい。

まずは、本市が目指す教育の方向性やGIGAスクール端末利活用の取組について、教育部から説明をお願いしたい。

【教育総務課長】

(資料3に基づき、本市が目指す教育の方向性について説明)

資料3については、本市の教育の取組をまとめたもので、完成したばかり。今後、ホームページや学校等で周知していく。

(1) 安心・安全な学校

まず、本市が目指す教育の方向性として掲げる3つの柱のうち、「安心・安全な学校」について説明する。

ア 地域の方や保護者の方と協働して、子どもたちの安全を見守ること。

イ 校舎の長寿命化改修等、安全な施設で学校生活を送れるようにすること。

ウ 熱中症対策としてエアコンの設置や、水泳の時間に民間のプールを導入する等、酷暑の中でも活動を行えるようにすること。

エ 学校給食費無償化や副教材費の一部を公費で負担する等、物価高騰の中においても安心して学校生活を送ることができるよう支援すること。

【教育指導課長】

(資料3に基づき、本市が目指す教育の方向性について説明)

(2) こどもたちの可能性を引き出す取組

次に、「こどもたちの可能性を引き出す取組」について説明する。

ア FLY to NZ PROJECT等を通じて、次世代のリーダーを育成すること。

イ 厚木市SEL教育基金を活用した厚木こども科学賞や、おもしろ理科教室等、理科教育を通じてこどもの興味を引き出すこと。

ウ 読書を促すこと。

エ 睡眠教育により、学習意欲の向上を図ること。

(3) インクルーシブ教育

次に、誰一人取り残されないという観点から「インクルーシブ教育」について説明する。

ア 日本に来て間もないこども向けの日本語プレクラス「あぷれ」の設置等、発達や言語に応じた多様な学びを提供すること。

イ 厚木市インクルーシブ教育推進事業に基づき、全てのこどもが関わり合いを持ちながら学校生活を送っていくこと。

【教育研究所長】

(GIGAスクール端末利活用の取組について説明及び動画視聴)

次に、GIGAスクール構想の下、各学校で展開しているGIGAスクール端末利活用の取組について説明する。

ア AI型デジタルドリル教材の導入

イ GIGAステップアップ支援員の増員

ウ 教育委員会専用プラットフォームの開設

ここで、教室で児童・生徒がGIGAスクール端末を活用している様子と、AI型デジタルドリル教材の概要をまとめた動画を御覧いただく。

※ 動画視聴

【山口市長】

今、御覧いただいた映像からも、学校の様子が昔からかなり変化していることが分かったのではないかと。

教育施策については、すぐにできること、できないことの区分けがあると思うが、ここからは、私も含め、教育委員の皆様と忌憚^{きたん}のない意見交換をしていきたい。

私の思いとしては、「教育」で選ばれるまちとなるためには、他の自治体とどう差別化をしていくか、という点が重要であると思う。

まずは、学力での差別化について考えてみたい。学力の解釈は、単なる知識や技能の習得にとどまらず、それらを活用する柔軟な思考力や表現力のほか、学ぶ意欲や判断力、問題解決能力などを含んだものであるということは承知している。

一方で、知識や問題を解く力など、テストで測ることができる学力も重要な要素である。ここでは、テストで測ることができる学力に焦点を当てたいと思う。テストで測る学力は、こどもたちの未来を拓くための翼となり、可能性を広げてくれるものであるため、学力テストなどで全国平均より点数が高いというのは、まちとして大きな魅力となるのではないか。特に、移住を検討する子育て世帯などが住まいを選ぶ時には、こどもの教育環境は、目安の一つになるのではないか。

公立学校としての役割がある中で、他市の公立学校との差別化を図るのは難しいものであると思うが、学力向上のための取組としてどのようなものが考えられるか、御意見を伺いたい。

【森委員】

教育委員会の範囲の中で定期的に行われている全国学力・学習状況調査の結果の中で公に扱える指標として、平均点がある。大切なことは、点数が悪いお子さんをどれだけ底上げするかということ。それで平均点は上がる。

AI型デジタルドリルは、個別の問題が出るという点で素晴らしい。皆が一斉に同じ問題を解くのではなく、その子の能力に合わせた学習が大事。そういった意味で、AIの活用はとても良い取組だと思う。隙間時間を使い活用していけば、平均点は上がるのではないか。

【山口市長】

AIを活用すれば、平均点を底上げできるという御意見があった。

こどもたちが、このような教材を主体的に、習慣化し活用していくことが大事なのではないか。

【杉山委員】

教育研究所長から、AI型デジタルドリルは令和7年5月に導入という説明があった。導入されたばかりだが、学校ではどのくらい活用されているか。

【教育研究所長】

5月の連休明けから導入を開始した。

まずは、教員を対象に5回、放課後の時間を使いオンライン研修を実施した。研修を受けた教員は、積極的に活用している印象がある。

また、教材を開発した業者であるベネッセから、週ごとの活用率の報告がある。

直近の報告では、中学校は53.2%、小学校は47.4%の活用率であった。

週に100人の児童・生徒のうち70人が活用すると、70%の活用率ということになる。活用が多い学校だと、100人中96人は取り組んでいるという報告を受けている。

教員の中には、定期テストの対策として10分間でできる教材を配信する例もある。導入から間もないため事例が少ないが、これから積極的に活用を促していく。

【杉山委員】

ICTは、小学校では活用していきやすいが、中学校は専門教科があるため活用しにくいイメージがある。

【教育研究所長】

本教材には、主要5教科が入っており、どの教科も特徴的だが、中学校での活用率には課題もある。入試対策等での活用を促していければと考えている。

【杉山委員】

AI型デジタルドリルは入試対策に向いている、などの特徴があるのか。

【教育研究所長】

暗記、計算、漢字に特化したドリルがあるが、入試対策用に特化しているわけではない。しかし、入試対策の問題は集録されている。

【杉山委員】

全国学力・学習状況調査が4月に実施されるが、小学校は、計算や漢字が苦手という結果が過去には出ている。AI型デジタルドリルは、厚木市民にあまり知られていない印象があるため、積極的に周知し活用を促してほしい。

学習には、得手不得手がある。学力が低い分野に関して、AI型デジタルドリルでカバーできることなどないか。

【教育研究所長】

AI型デジタルドリルは、「こどもに応じた個別のドリルが作られる」というイメージ。基礎基本の定着を図るのに適している。例えば、基礎基本の学習をAIに任せてしまえば、探求的な学びや対話を交えた学びに教員が力を入れやすくなるのではないか。

【宮崎委員】

学校や地域にもよるが、市として全国学力・学習状況調査の平均点を上げるというのは難しいことである。

平均点を上げるためには、学習の習慣化をいかにしていくかが大事。依知中学校

に勤めていた時、「依知検定」というものを独自に取り入れて、計算や漢字の理解が進んだという経験がある。

例えば、「依知塾」など、放課後に特別な指導をするなどの思い切った指導を取り入れていかないと、成績の底上げはできない。

【教育長】

厚木のこどもの学力は、全国と同等の力がある。令和5年と令和6年には、中学校の数学が全国平均を上回っている。他市町村との差別化という議論の中では、厚木は全国と同等又は平均以上の学力を身に付けることができると評価している。

ただ、平均点は、できる子やできない子がいるという話なのではないか。学力が数字として全国平均を超えているという点では、先生方に授業の工夫をしていただき、個別最適な学びが提供されているということなのではないか。

その上で、他市町村との差別化のために必要だと思うことは2点ある。

1点目は、AI型デジタルドリルの活用をどう周知していくかという点。AI型デジタルドリルは、その子に応じた問題を作ってくれる。このような環境が整っていることを外部に見せていくことが大事なのではないか。

2点目は、授業力の向上をいかにしていくかという点。充実した教員の研修や、教育委員会専用プラットフォームなど、教員が互いに高め合っていくツールが整っている。これらを活用しながら、厚木には素敵な先生がたくさんいるということを見せていくのが重要なのではないか。

【山口市長】

現在、学校の取組を外部に周知していくのは難しい現状がある。どのように発信し、他市と差別化していくかが重要なのでは。

【山本委員】

勉強は、量をこなせば、ある程度はできるようになる。

一方で、こどもたちは年齢に応じた忙しさがある中で、量よりも質をいかに上げていくかが大事なのではと考える。単に全国学力・学習状況調査を知識の量として捉えるよりは、判断力や人間力を含めた形での学力として考えていきたい。

先ほど、中学校の方がAI型デジタルドリルの活用が進んでいるという話があったが、中学生こそ、使い方や想像力が豊かで、教材活用の伸び代があるような気がする。

大学の選抜テスト等では、文章で書かせることは少なくなっている。将来の学力ということを考えると、AI型デジタルドリルは実用的である。

【山口市長】

いろいろな意見をいただいた。今後も、他市町村との差別化について積極的に取

り組んでいきたい。

次に、「厚木ならではの教育環境」について意見交換をしたいと思う。

「厚木なら学ぶ力が伸びる」「●●を体験できる」「こどもの意欲が高くなる」など、“厚木なら”と、敢えて厚木を選んでもらえるような魅力ある教育は、どのようなものが考えられるか。

例えば、学習方法で厚木らしさを出していくのはどうか。

学校のカリキュラムは、学習指導要領がベースになるため、ある程度の方向性が定められているものと理解しているが、その中で、より先進的な学習活動、例えば、受験等を意識したい児童・生徒向けの学習活動を取り入れるなど、個々の能力に応じたこれまでとは違った学習方法などの可能性を探るのはどうか。御意見を伺いたい。

【杉山委員】

夢物語かもしれないが、2点提案させていただく。

1点目は、小中一貫校に倣い、幼保小中高連携について。幼稚園から高校卒業までの15年間を立て串で進めていくような教育を確立すると、大きな売りになるのではないか。幼稚園から小学校、小学校から中学校に進学する時のギャップ解消にもなる。

具体的には、児童・生徒数の減少や施設の老朽化による小鮎地区の小鮎小学校、小鮎中学校の適正配置を機に、飯山小学校と一体型の小中一貫校を作ると、先進的な学習方法を打ち出せるのではないか。

例えばICT機器を先進的に学ぶ学校などはどうか。近くには教職課程がある松蔭大学があるので、ICT教育や英語教育の強化や部活動の連携をするなどできることが多いのではないか。

スポーツ活動においても、厚木にはゴルフ場が多くあるが、「あの学校に行くとプロゴルファーを目指せる」といったことも考えられる。その他、JAとコラボし園芸や農業に特化した学校を創るなど、厚木独自の学校の創設が可能ではないか。

2点目として、小学校や中学校に新入学したときに費用がかかるため、1学期の教材費を無償化にするなども特徴的で差別化されたものになる。教育にお金を掛けられない家庭を後押しするような取組はどうか。

【山口市長】

先進的な取組には「厚木の強み」も含まれているもの。夢物語とは思わず、積極的に議論を進めていければよいと思う。

【山本委員】

厚木には幼稚園から大学までそろっており、これは絶対的な強みである。教育機

関のほかにも、多種多様な企業や研究機関がそろっている。

また、都内には無いものとして、自然環境がある。7月1日号の広報あつぎの表紙にあった「田んぼもぼくらの教室」というフレーズはとてもよい。もっと、自然の中でこどもたちを育むことはできないか。

他には、より多くの企業との連携も考えられる。SELから補助をもらうだけでなく、こどもたちに夢を見せるものとしての連携はどうか。

おもしろ理科教室や厚木協働大学などを小学校、中学校に更に落とし込んでキャラクター的にできないか。もっと面白くなるのではないか。

【森委員】

山本委員と一緒に、2月1日の厚木市制70周年記念式典の動画について、七沢のなんと美しいことか。住んでいると意識しないが、あの動画を見た時に厚木の自然の素晴らしさを実感した。飯山に住んでいながら七沢のことをあまり知らなかったという反省があった。

家族と行く旅行ではなく、授業の中で自然を知り学ぶ機会があるとよい。先日、オーストラリアの人が田植えを体験するテレビ番組を見た。体験した人たちは、また来たいと言っていた。厚木には農家もたくさんあるため、生活に直結した自然を厚木全体で学べる機会を増やしてほしい。

また、SELとの連携について、展覧会などに足を運ぶ機会を学校の授業として取り入れるのはどうか。

【宮崎委員】

厚木は教育環境のベースがそろっている。9年間の義務教育学校は、校長1人がカリキュラムを組めるためよい。

特別支援級や療育に通う子が年々増えていることを考えると、専門の学校を市内に作るのはどうか。海老名にはできたので、厚木独自に作ってほしい。

【教育長】

厚木にはたくさん強みがある。

まずは給食費や医療費が無償であること、冷暖房完備など。

他には、こどもたちが多様な考え方に触れながら育つことができる点や、地域社会の中で、特色をいかしたものを体験できる点。

そして何より、地域の方々がこどもたちをあたたく見守ってくれる点。守られていることを実感できる点。厚木は人的支援を熱心に行っており、自己研さんに努める先生が多く、他市から羨ましがられている。

その中で、さらに企業や大学と連携していきたい。最近は国籍を超えたグローバルな環境となっている。STEAM教育など、グローバル人材を育てられる点を示していきたい。

また、受験を意識したい子や学びを深めたい子については、更に刺激を与えるような、たとえば「厚木未来塾」などの特別なカリキュラムが必要になるのではないかな。

学習指導要領の中で「社会に開かれた教育」というのがあるが、まさに厚木は地域と連携した学習を推進している。このような取組が意外と知られていないことを実感している。

【山口市長】

厚木には、世界に名高い企業があり、学校と連携できる環境がある。わたしの提案でも、連携に関する提言をいただいている。企業、自然、ものづくりなど、様々な魅力をこどもたちに提供できるような教育を目指していきたい。

また、現在、厚木市制70周年を記念した映画を制作している。こういった映画に出演するような著名人が厚木にはたくさんいるという点も、誇りに思ってもらいたい。

そういう意味では、情報発信が大事だと思う。

情報発信については、届けたい情報を 届けたい人にしっかりと届けられているかという点が、教育に限らず本市の施策全般の課題としてある。

学校では、日々、教員の皆様が様々な工夫を凝らして児童、生徒と向き合っているが、学校内の取組は学校外に出ることがあまりないのではないかなと思う。

学校内の取組の「見える化」を図ることで、本市の教育のPRになると思う。

たとえば、SNSの活用についてはどうか。消防署は毎週SNSを更新しており、私も毎回「いいね！」を押している。SNS等での発信は、時々するのではなく、絶え間なく行うことが広告宣伝の観点で大事である。民間業者のチラシ等も頻回に届けられることで、情報が少しずつ頭に蓄積されていくものである。

【杉山委員】

今、厚木市で採用されている教員の出身は、神奈川県と他県とでどのような割合かな。

【教職員課長】

地元に近い県内の出身者が多い印象。神奈川県の場合は倍率が下がった際には、遠方から採用試験を受けに来るということもあったが、ここ数年は県内の職員が多い。

【杉山委員】

厚木市制70周年記念式典の七沢の映像は、本当に素晴らしかった。70年間厚木に住んでいるが、知らないことは多い。

厚木のこどもたちにいろいろなことを教える先生が厚木を知らないのはもったいない。案外、県外にアピールするよりも厚木市内の人に向けた情報発信が重要な気がする。市内に向けた情報発信をイメージするのもよいかもしれない。

【宮崎委員】

世代にもよるが、SNSは若い人の間で積極的に利用されているため、先般、幼稚園でもInstagramの発信を始めた。チラシを配っても若い保護者は見ない。学校でもInstagram等のSNSを活用した発信ができないものか。

また、教育に特化したPR映像はないのか。

【宮崎委員】

1分でも2分でも、教育に関する映像があるといい。それを小田急TV（小田急線車内のサイネージ媒体）に掲載すると、更によい。

【教育総務課長】

広報シティプロモーション課で予算を取り、15秒程度の教育に関するショートムービーを作成している。小田急TVで流す予定である。

【山口市長】

これまでも、小・中学校給食費無償化や厚木のホルモンの映像などを小田急TVで流していた。

【山本委員】

駅前のデジタルサイネージなどにも出すのか。

【教育総務課長】

小田急TVとはサイズが異なるが、編集して出していけると良い。

【山本委員】

こどもたちの郷土愛を育むことが大事。学校環境の情報が駅周辺で出ているのは、様々な人への周知という意味でも大事なことである。

【森委員】

先日、NHK番組「ブラタモリ」で大山^{まい}詣りのことが取り上げられていた。数年前に、広報あつぎで大山のことを取り上げていたので、NHKの目に留まったのかもしれない。

個人的に、2年前から坂東三十三観音を巡礼しているが、どこに行ってもお参り

の方が来ている。厚木飯山観音は6番目だが、そのような郷土の文化をコツコツ発信していくのも大事なのではないか。

【教育長】

資料3は、市内市外にアピールするために作ったもの。厚木市子育て・教育サイトおおきくな〜れ！にも掲載する予定。

小田急の広告は、短い時間でも非常にインパクトがある。今後も自信をもって取り組んでいく所存である。

【山口市長】

いろいろとお話をいただき感謝する。

子育てや教育については、流山の事例を取り上げられることが多いが、取組内容は本市も遜色ない。ただ、流山はマスコミの使い方など工夫をされている印象がある。

施策に力を入れながら、PRにおいても引き続き頑張っていきたい。これからも全庁的に力を入れて取り組んでいく。

【山口市長】

それでは、案件が全て終了したため、進行を事務局に返す。

【事務局】

これをもって第1回会議を終了する。

以上